

日本学術会議
フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会
持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会（第 25 期・第 1 回）
議事要旨

日 時 令和 3 年 4 月 1 3 日（火）15:00～17:00

会 場 ビデオ会議にて開催

出 席 窪川かおる、鈴木康弘、日置光久、氷見山幸夫、福士謙介、山形俊男、山口しのぶ、
小金澤孝昭、薦田有紀子・小山堯（事務局）

資 料：

資料 1：分科会設置提案書

資料 2：分科会委員名簿

資料 3：第 24 期第 7 回 FE 教育人材育成分科会議事要旨

資料 4：第 24 期第 8 回 FE 教育人材育成分科会議事要旨

参考資料 1：メール審議の実施について

参考資料 2：委員会等の議事要旨の公開等に関するガイドライン

議 題

1) 分科会役員の選出と承認について

・事務局の進行により、出席委員数が定足数を満たしていることを確認の後、委員長に氷見山委員を選出した。以後の議事は氷見山委員長が議長を務めた。

・委員長より副委員長に小金澤委員を、幹事に鈴木委員を指名したい旨提案があり、これらを承認した。なお後日幹事を 1 名増員することとした。議事要旨（案）は幹事が作成することとした。

2) 前期分科会の申し送り事項について

・資料 3、4 に基づき前期分科会の申し送り事項を確認し、共有した。特に国内・国際的動向の情報共有と、ワークショップ等を鋭意実施することを確認した。

3) 分科会に関係する国際的・国内的動向について

・2021 年は生物多様性の年。第 15 回生物多様性条約締約国会議（COP15）が昆明でハイブリッドで開催される。世界各地からオンラインで参加できる。国連気候変動枠組み条約第 26 回締約国会議（COP26）は 11 月に英国で開催。来年のテーマ是水。

・今秋にアジア太平洋水サミット。高校生を参加させる。体験型を事務局（土木学会）が企

画。Future Earth は事務局体制見直し中。分散型になり日本も春日先生が準備中。日本委員会代表は武内先生から安成先生へ。学術会議側は高村先生。

- ・海洋 10 年が始まる。Youth に焦点。5 月にユネスコ+独政府が 10 年計画を立案。
- ・ユネスコが ESD の WS を開催。明日が 7 回目。ヨーロッパ中心のため災害の話が弱い。
- ・Sustainability Research Innovation (SRI2021)が 6 月にブリスベンで開かれる。100 以上のセッションがあるが教育はない。
- ・ISC の地域オフィスが削減の方向にあり、最近もアフリカの地域オフィスが閉鎖された。アジア地域オフィスの存続に日本の果たす役割は大きい。
- ・学習指導要領の変更で教育現場は忙しい。
- ・今年は中学校、来年は高等学校で新しい指導要領による教科書に変更。地理でも探究的課題として SDGs が取り上げられる。
- ・小学校は既に始まっている。小中高の連続が重要。

4) 今期の分科会の活動方針について

- ・2 つの小委員会を設置。①ESD、②海洋。小委員会名称・構成・シンポジウム等の企画を、前者は小金澤委員、後者は日置委員を中心に検討する。Youth の参画に焦点を当てる。
- ・ESD は、今までは小学校が中心だったが、中高に重点を移してはどうか。
- ・海洋について、環境思想委員会でも学校教育と連携しようという動きがある。教育現場が困っているので支援する方向が良い。
- ・分科会委員の補充。現状は前期から 3 名減。メールベースで情報・意見交換をし、最終的な取りまとめと提出は委員長預かりとする。4/20 までに提案を受け付ける（全員宛メールで）。
- ・会議費の有無に依らず会合はできるだけ zoom を活用する。次回は以下で調整。第一候補：6/14 15:00-17:00, 第二候補：6/15 15:00-17:00。主にシンポジウムについて議論する。

5) その他について：事務局から提案事項

- ・メールアドレスを共有することについて了承した。
- ・参考資料 1「メール審議の実施について」を確認し、メール審議を実施することを了承した。できる限りオンライン(Zoom)で実施。
- ・課題別委員会のため、予算上は当初委員数に対して年間 2 回まで配分可能。
- ・参考資料 2「日本学術会議における委員会等の議事要旨の公開等に関するガイドライン」を確認した。議事要旨は会議終了後 8 週間以内に事務局へ提出。全委員の確認が必要要件。